

平成23年度

# 事業報告

平成23年4月1日から

平成24年3月31日まで

財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

## はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、物質的側面はもとより、特に精神的側面において、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、本年度の事業を実施した。

特に、本年3月11日に発生した東日本大震災は、その巨大で広範囲に及ぶ津波によって未曾有の被害をもたらした。さらに人災ともいえるべき福島原子力発電所の事故を引き起こし、多くの人々を不安に陥れた。WCRP 日本委員会も、緊急支援・復興支援のための緊急勧募を行い、さらに復興支援のための特別事業部門を立ち上げ、事業を実施した。今回の大震災を通じて、改めて命の尊さを痛感させられるとともに、被災者のおかれた状況を知るに従って、平和とは何かを一層考えさせられることとなった。

また、本年度も公益法人制度改正にともない、WCRP 日本委員会がさらに平和と調和への役割を果たしていくために、“より開かれ、より行動する WCRP 日本委員会”を目指して、組織改革を行った。その結果に基づき、公益認定申請の準備を進め、申請書類を提出した。

さらに、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

## I. 事業部門

### A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

#### 事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

## 1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

### (1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー教等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。平成 23 年度の事業は以下の通り。

#### ①アジア宗教者平和会議（ACRP）執行委員会

期日：平成 23 年 5 月 24～25 日

会場：マレーシア・クアラルンプール

概要：アジア 16 カ国から、諸宗教指導者である 35 名の執行委員が参加し、特に東日本大震災への対応について議論された。ACRP をはじめ、各国の関係者から支援金が寄せられ、犠牲者の追悼や日本人への精神的支援などを盛り込んだ声明文が採択された。さらに「地球的な課題とアジア」というテーマに基づき、討議が行われた。

#### ②韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

概要は、下記「(3) セミナー」の通り。

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東アジアにおける平和共同体の樹立と宗教の役割」をテーマとするセミナーが開催され、WCRP 日本委員会から 8 名が参加した。

#### ③アジア女性フォーラム

共催：ACRP（アジア宗教者平和会議）アジア・太平洋地域女性ネットワーク  
聖トマス大学（フィリピン・マニラ）

会場：聖トマス大学等

参加者：約 20 名

テーマ：平和と開発の文化をはぐくむ

概要：第 8 回 WCRP 世界大会で採択された「行動計画」を実施するため、平和に向けたアジア・太平洋地域における女性宗教者の役割を確認し、実施状況についての報告、今後の取り組みのあり方について、3つのセッションで討議された。WCRP 日本委員会からは、2名が出席し、河田尚子 WCRP 日本委員会婦人部会委員（イスラーム、アル・アマーナ代表）が、「世界の環境に持続可能な未来を構築するために」をテーマとする第 2 セッションで発題した。

#### ④スリランカ諸宗教評議会代表団との交流

WCRP の国内委員会であるスリランカ諸宗教評議会の代表団が、2009 年まで約 30 年間続いた国内紛争終結後の復興と民族融和、平和構築に向け、日本の戦後復興や諸宗教協力の現状を学ぶことを目的として、平成 24 年 3 月 25～29 日の期間、来日し、WCRP 日本委員会が受入れにあたった。代表団は、スリランカの仏教、ヒンズー教、キリスト教、イスラームの宗教指導者たち 11 名で構成された。

来日期間中の主なプログラム概要は、以下の通り。

3月26日

WCRP 日本委員会婦人部会創設 30 周年記念式典への参加・日本の宗教者との交流（東京普門館）

3月27日

明石康 スリランカ平和構築及び復旧・復興担当日本政府代表との会合（東京・国際文化会館）

3月28日

玄葉光一郎 外務大臣との会見

## （2）東日本大震災緊急支援・復興支援

平成 23 年 3 月 13 日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、関係団体、賛助会員、関係者に協力を呼びかけるとともに、街頭募金や機関誌、ホームページを通じて、一般市民へ広く支援を呼びかけた。

平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 31 日）時点で、129,783,524 円、平成 23 年度末までに、合計 261,398,720 円の募金が集められた。

平成 23 年 3 月 17 日に第 1 次支援金として、被災した自治体に総額 1,100 万円を送付した。送付先及び金額は、以下の通り。

### 【第 1 次支援】

－岩手県（岩手県災害義援金募集委員会）	300 万円
－宮城県（宮城県災害対策本部）	300 万円
－福島県（福島県災害対策本部）	300 万円
－茨城県（社会福祉法人茨城県共同募金会）	200 万円

また、平成 23 年 3 月 25 日～30 日に第 1 次調査隊を派遣し、甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県を中心に調査を行った。4 月 12 日～17 日には、第 2 次調査隊を派遣した。第 2 次調査隊には、WCRP 国際事務局並びに ACRP（アジア宗教者平和会議）事務局も参加。名取市役所・同ボランティアセンター、石巻市社会福祉協議会・同ボランティアセンター、気仙沼ボランティアセンター、ジャパンプラットフォーム、JANIC、シャンティ国際ボランティア会（SVA）、カリタスジャパン仙台事務所、少林寺（気仙沼市）、月山神社（陸前高田市）など、岩手県、宮城県で活動する NGO と宗教団体を訪問し、情報収集を行った。また、その後も現地調査・情報収集を継続して行い、結果、5 月に第 2 次支援（総額 8,500 万円）、6 月に第 3 次支援（総額 2,900 万円）を決定し、WCRP 日本委員会の役員等関係者が現地を訪問し贈呈した。

### 【第2次支援】

#### 1. 社会福祉協議会

- |                                    |         |
|------------------------------------|---------|
| ①岩手県                               | 1,100万円 |
| *移動入浴車2台の購入                        |         |
| ②福島県                               | 1,000万円 |
| ③宮城県石巻市                            | 800万円   |
| ④岩手県陸前高田市、大槌町、宮城県仙台市、名取市、気仙沼市、南三陸町 | 各500万円  |
| ⑤岩手県大船渡市、釜石市、福島県いわき市、宮城県女川町        | 各300万円  |
| ⑥福島県相馬市、南相馬市                       | 各200万円  |

#### 2. 民間団体

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| ①せんだい・みやぎ NPO センター     | 500万円 |
| ②国際協力 NGO センター (JANIC) | 500万円 |

### 【第3次支援】

#### 1. 社会福祉協議会

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| ①青森、千葉、栃木の各県社会福祉協議会 | 各200万円 |
|---------------------|--------|

#### 2. 民間団体

- |                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| ①遠野被災地支援ボランティアネットワーク (通称：遠野まごころネット) | 300万円 |
| ②うつくしま NPO ネットワーク (福島県)             | 300万円 |
| ③元気玉プロジェクト (福島県)                    | 300万円 |
| ④シャンティ国際ボランティア会 (SVA)               | 500万円 |
| ⑤心の相談室 (宮城県)                        | 500万円 |
| ⑥栄村復興支援機構「結い」                       | 200万円 |
| ⑦地域活動サポートセンター柏崎                     | 200万円 |

さらに、7月には、復興支援のための特別事業部門（タスクフォース）を立ち上げ、少なくとも5年間復興支援を実施することを決定した。復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の3つを掲げた。12月には、宮城県仙台市にあるせんだい・みやぎ NPO センター内に担当デスクを置き、スタッフを派遣した。現地の支援団体や宗教団体と連携し、大槌町における NPO 法人「アムダ」と連携した茶会プロジェクトや、「心の相談室」による電話相談など、「心のケア」に焦点を当てた活動を実施しながら、さらなる復興支援を実施する

ための準備を進めた。

また、平成 24 年 3 月～5 月の期間、『東日本大震災をけっして忘れない』ための祈りと行動」をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン 2012」を展開した。3 月 11 日～21 日の 11 日間、14:46 に 1 分間の黙とうを捧げた。その最終日である 3 月 21 日には、岩手県大槌町大念寺を会場に、諸宗教合同で、「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」を主催した。概要は、以下の通り。

日時：平成 24 年 3 月 21 日 14:00～15:00

場所：浄土宗大念寺（岩手県大槌町）

参加者：WCRP 日本委員会役員・大槌町宗教者など約 60 名

（仏教、神道、教派神道、キリスト教、新宗教、イスラーム等）

プログラム概要：

開会挨拶（庭野日鏡 WCRP 日本委員会理事長）

宗教宗派別の祈り（9 つの宗教宗派の代表者）

黙とう

閉会挨拶（大萱生修一 大念寺副住職・釜石仏教会副会長）

同キャンペーンの一環として、平成 24 年 3 月 9 日～6 月 3 日の期間、毎週金～日曜日に復興支援ボランティアを募集し、福島県会津地方の仮設住宅において、地域伝統産業（わらじ作り）の手伝い、仮設住宅の清掃等の活動を行った。

上記の「心の相談室」は、宮城県仙台市を拠点に、宗教宗派の枠を超えた宗教者が中心となり、医療や生活支援の専門家と一体となり、亡くなられた方への追悼儀礼や遺族などのグリーフケアに取り組むために、平成 24 年 5 月 7 日に設立された。

以下の概要で、その設立記念講演会が行われ、参画した。

期日：平成 23 年 5 月 7 日

場所：東北大学さくらホール（宮城県仙台市）

参加者：学者、宗教者、医療関係者等約 200 名

プログラム概要

〈第 1 部〉

グリーフケア専門家の講演

宗教施設を開放して被災者支援を行っている宗教者からの発題

〈第 2 部〉

パネルディスカッション

藪田稔 WCRP 日本委員会評議員・同平和研究所所員（秩父神社宮司・京都大学名誉教授）が登壇。

## 2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

### (1) 第38回平和のための宗教者研究集会

期日：平成23年6月13日

場所：日蓮宗大本山池上本門寺本殿（東京都大田区）

参加者：約200名

テーマ：東日本大震災と私たち——宗教者のまなざしと実践——

プログラム概要：

東日本大震災遭難者慰霊法要

開会挨拶（安田暎胤 WCRP 日本委員会常務理事・薬師寺長老）

基調講演（加藤隆久 WCRP 日本委員会監事・生田神社宮司）

パネルディスカッション

小野崎秀通 曹洞宗洞源院住職、川上直哉 日本基督教団仙台市民教会

主任担当教師など4名のパネリストによるディスカッション

質疑応答

閉会挨拶（藪田稔 WCRP 日本委員会評議員・秩父神社宮司）

以下の「8. 広報」にある通り、報告書を刊行した。

### (2) 平和大学講座

期日：平成23年9月12日

場所：熱田神宮会館（愛知県名古屋市）

参加者：約180名

テーマ：現代文明に宗教者はどう関わるか——原発問題を契機として——

プログラム概要：

開会挨拶（岡野英夫 WCRP 日本委員会理事・解脱会理事長）

基調講演（西谷修 東京外国語大学総合国際学研究院教授）

パネルディスカッション

WCRP 日本委員会平和研究所所員によるパネルディスカッション

閉会挨拶（安田暎胤 WCRP 日本委員会常務理事・薬師寺長老）

### (3) アフガニスタン図書館事業・絵本出版事業報告会

難民委員会・婦人部会が、約10年にわたり、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）を通して、アフガニスタンの「子ども図書館の運営・絵本出版事業」を行っている。同事業についての報告会を以下の概要で開催した。

期日：平成23年10月6日

場所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

参加者：約30名

プログラム概要：

開会挨拶（林丈嗣 WCRP 日本委員会難民委員会委員長・弓矢八幡副教主）  
事業報告

（三宅隆史 SVA アフガニスタン事務所所長、ワヒド・ザマニ同副所長）

絵本の読み聞かせ（ニアマトラ同事務所スタッフ）

質疑応答

閉会挨拶

（森脇友紀子 WCRP 日本委員会婦人部会部会長・カトリック東京大司教区  
アレルヤ会会長）

#### （4）新春学習会

期日：平成 24 年 1 月 27 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

参加者：約 200 名

テーマ：WCRP 日本委員会——成果と未来——

プログラム概要：

開会挨拶（三宅光雄 WCRP 日本委員会常務理事・金光教泉尾教会教会長）

パネルディスカッション

「非武装・和解」「開発・環境」「人権」「難民」の 4 つの活動部会の  
代表者が登壇し、これまでの活動の成果を発表

公益財団法人への組織・活動改編について

（宮本けいし WCRP 日本委員会事務総長・妙智會教団理事長）

東日本大震災の取り組みについて

（根本昌廣 WCRP 日本委員会震災タスクフォース責任者・立正  
佼成会外務部長）

閉会挨拶（加藤隆久 WCRP 日本委員会監事・生田神社宮司）

### 3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

#### （1）外国人労働者支援報告会

期日：平成 23 年 6 月 24 日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約 10 名

概要：野村純一 WCRP 日本委員会人権委員会委員長（カトリック名古屋教区  
教区長）による開会挨拶の後、以下の 3 つの団体の代表者から、在日外国人を対象とする支援活動についての報告がなされた。



- －狩野正義 「共の会」代表（神父）
- －天明佳臣 「神奈川県勤労者医療生活協同組合」理事長
- －渡辺英俊 「カラバオの会」渉外担当

(2) 非武装・和解に関する学習会

期日：平成 23 年 7 月 20 日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約 20 名

テーマ：「福島原発事故と世界の将来——民事、軍事を問わない核廃絶の実現へ」

講演者：村田光平 地球システム倫理学会理事

(3) 韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

期日：平成 23 年 9 月 15 日～17 日

場所：韓国ソウル市内ホテル

テーマ：東アジアにおける平和共同体の樹立と宗教の役割

参加者：日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 40 名

WCRP 日本委員会から、8 名が参加し、基調発題者、パネリスト等として発題し、議論に参画した。

プログラム概要：

全体会議

基調発題（眞田芳憲 WCRP 日本委員会評議員・同平和研究所所長・中央大学名誉教授）

セッションⅠ 「東アジア共同体の樹立——韓国からの視点——」

セッションⅡ 「東アジア共同体の樹立——日本からの視点——」

セッションⅢ 「東アジア共同体の樹立——中国からの視点——」

全体会議（まとめ）

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。また、報告書を平成 24 年 5 月に発刊するため、翻訳・編集作業を行った。

(4) 開発・環境に関する現地学習会

期日：平成 23 年 10 月 11 日～12 日

場所：宮城県気仙沼市・岩手県

参加者：約 10 名

プログラム概要

気仙沼湾で追悼の祈りを捧げた後、岩手県一関市の「ひこばえの森交流センター」を訪問し、気仙沼市の NPO 法人「牡蠣の森を慕う会」と共同で実施している植林活動や自然環境保護への取り組みについて学んだ。

(5) 開発・環境に関するスタディー・ツアー

期日：平成 23 年 11 月 7 日～12 日

場所：ブータン王国

参加者：3 名

プログラム概要

国立ブータン研究所のトオキ・ザングモ氏、ブータン電力代表者の訪問、地元警察官への聞き取り、家庭訪問を行い、GNH（国民総幸福量）や環境に関する取り組みについての学習を深めた。

(6) アラブ・イスラーム学院国際シンポジウムへの参加

主催：サウジアラビア王国国立イマーム大学東京分校

期日：平成 23 年 11 月 19 日～20 日

場所：アラブ・イスラーム学院（東京都港区）

参加者：約 80 名

テーマ：対話を通じての平和構築

プログラム概要

鳩山由紀夫 元日本国総理大臣が開会の挨拶をした後、5つのセッションが実施された。それぞれ「平和とは？その目的・アプリケーションと実践の方法」、「宗教対話による平和構築——イスラームと日本の文化的視点からの提案」をテーマとするセッション2及びセッション5において、眞田芳憲 平和研究所 所長と黒住宗道 評議員（黒住教副教主）が発題した。

(7) 中国孤児救護協力委員会の訪問

平成 23 年 11 月 16 日～18 日韓国慶州を訪問し、中国孤児救護協力委員会支援事業に対する支援金の贈呈を行った。

中国孤児救護協力委員会の委員長の宋美虎（ソン・ミホ）氏が、園長を務めるナザレ園を訪問し、中国における孤児の状況について学び、また支援事業についての報告を受けた。

(8) ミレニアム開発目標（MDGs）に関する学習会

期日：平成 23 年 12 月 16 日

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：約 20 名

テーマ：「MDGs の概略と達成状況」

講演者：山口誠史 国際協力 NGO センター（JANIC）事務局長

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 国連ミレニアム開発目標（MDGs）達成のための取り組み

①「スタンドアップ・テイクアクション・キャンペーン」への協力

NGOのネットワークである「動く→動かす」が推進する同キャンペーンの後援団体として参画した。宗教団体を中心として、MDGs達成を目的とする同キャンペーンの参画を呼びかけ、また、同キャンペーンに対しての資金的支援を行った。

#### ②MDGs達成のための国際シンポジウムの開催

不特定多数の人々が、MDGsに対してより深く理解するため、以下の概要で実施した。

共催：WCRP日本委員会、国際協力NGOセンター（JANIC）、  
「動く→動かす」

期日：平成23年6月1日

場所：JICA地球ひろば（東京都渋谷区）

参加者：約230名

テーマ：「MDGs達成のために今、何をすべきか？」

プログラム概要：

開会挨拶（樋口美作 WCRP日本委員会監事・日本ムスリム協会理事）

≪第1部≫

講演「日本政府によるMDGsの取り組み状況報告」

（藤原聖也 外務省国際協力局審議官）

≪第2部≫

パネルディスカッション「MDGsに取り組むNGOからのメッセージ」

ジェレミー・ホップス（OXFAM国際事務局長）、

ラシーダ・チョウドリー（バングラデシュ公教育キャンペーン事務局長）

など5名

質疑応答

#### ③機関誌での啓発

月刊で発行している機関誌「WCRP」において、「ミレニアム開発目標（MDGs）特集」を組み、平成23年2月号から12月号で掲載し、広く一般への周知に努めた。

### （2）第23回国連軍縮会議

同会議は、「核兵器のない世界に向けた緊急の共同行動」をテーマとし、平成23年7月27日～29日に長野県松本市で開催された。24ヶ国から核軍縮に取り組む外交官、実務者、研究者、NGO代表など92名が参加した。WCRP日本委員会からは3名が同会議に参画し、議論の中で、宗教者としてのメッセージを発信した。

### （3）広島・長崎平和関連行事への参画

#### ①広島

平成23年8月6日早朝、広島県宗教連盟主催の祈りに参加し、その後広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に諸宗教の連合体とし

て、出席した。

## ②長崎

平成 23 年 8 月 7 日に、長崎県宗教者懇話会が主催する「トルコ共和国・イスラームと長崎県宗教者懇話会による平和の祈り」に出席し、翌 8 日には、同懇話会が主催し、原爆落下中心碑公園で行われた第 39 回原爆殉難者慰霊祭に参列した。また、8 月 9 日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

## (4) 「2020 Vision」キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和市長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。また、平成 23 年 11 月 22 日には、松井一實 広島市長並びにスティーブン・リーパー 広島平和文化センター理事長と会合を持ち、核兵器廃絶に向けた活動についての意見交換を行った。

## (5) 国連気候変動枠組み条約第 17 回締約国会議 (COP17)

平成 23 年 12 月 4～10 日、南アフリカ・ダーバンで開催された同会議に 3 名がオブザーバーとして出席した。また、7 日には、WCRP 南アフリカ委員会とともにシンポジウム「地球温暖化へのスピリチュアル・インパクト」を開催し、温暖化問題に対する世界の宗教者の取り組みについて話し合い、日本の宗教者としての提言を行った。

## (6) イスラーム指導者会議報告書

イスラームの正しい理解を啓発するため、平成 22 年 9 月に開催した「イスラーム指導者会議」をはじめとする活動の報告書を作成する準備を進めた。

## 5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成 23 年度は、以下に概要がある通り 5 回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約 800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

### (1) 研究会

#### ①第 1 回研究会

期日：平成 23 年 4 月 12 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長（中央大学名誉教授）

テーマ：「庭野日敬師の宗教協力による平和の実践と一仏乗の世界」

#### ②第 2 回研究会

期日：平成 23 年 7 月 13 日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：佐藤純一 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（国際メタテックテクノロジー研究センター所長）

テーマ：「福島原発事故とその提起した問題を考える」

③第3回研究会

期日：平成23年10月19日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：黒田壽郎 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（国際大学名誉教授）

テーマ：「末法の構造と慈悲」

④第4回研究会

期日：平成23年11月4日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（聖トマス大学講師）

テーマ：「社会的な関わり方を養う信仰古典の読書法」

⑤第5回研究会（合宿）

期日：平成24年3月21日～22日

会場：神奈川県三浦市

発表者・テーマ：

— 藪田稔 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（京都大学名誉教授・秩父神社宮司）

テーマ「災害と神道文化」

— 西原廉太 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（立教大学副総長・教授）

テーマ「世界のエキュメニカル運動と日本における外国人共生社会を  
求めるキリスト者の取り組みをめぐって」

— 山崎龍明 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（武蔵野大学教授・浄土真宗本願寺派法善寺住職）

テーマ「戦争と国家を考える——幸徳（大逆）事件の周辺と仏教者——」

— 奈良康明 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（駒沢大学名誉教授・法清寺住職）

テーマ「『共業』は成り立つか？」

— 山田経三 WCRP 日本委員会平和研究所所員  
（上智大学名誉教授・イエズス会司祭）

テーマ「アジアからの世界平和実現をめざして」

## 6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「婦人部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和

教育・倫理教育に資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

#### (1) いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

期日：平成 23 年 5 月 20 日

場所：日蓮宗大本山川崎大師平間寺（神奈川県川崎市）

参加者：約 120 名

テーマ：いのちの尊さにふれて

プログラム概要：

挨拶（山田俊法 川崎大師平間寺教化部長）

講演（片山蘭子 葉っぱのフレディ・ヘルパーセンター所長）

質疑応答

#### (2) いのちについてのアンケート

平成 23 年 3 月 1 日から 7 月末の期間、平和教育・倫理教育に資するため、15 歳から 25 歳の青年男女を対象に同アンケート調査を実施し、12 の学校・団体の約 1440 名からの回答を集計し、その結果のまとめ・分析を行った。さらに、平成 24 年度に第 2 次アンケート調査を実施し、その後に分析結果のまとめと平和教育のための提案書を冊子として出版する予定で、そのための準備を進めた。

同アンケートでは、「いのち」に関連する 21 の質問が設定され、質問は、次の 4 つのカテゴリーに大別される。1 つは、「いのち」そのものについての考えに関するもので、「いのち」のイメージや、いのちを意識するときにはどのようなときか、また、自分の「いのち」について感じることなどが設定された。その中で、自殺したい、死にたいと考えたことがあるかどうかを問う質問を含め、青少年の自殺・自死についての意識を調査した。

2 つ目は、生死に関する質問である。「いのち」が、その時間的なつながりの中で、どのように考えられているかを問うため、生きること・死ぬこと、または死後の世界について質問が設定された。

3 つ目は、周囲の人との関係性の中での「いのち」のあり方についての設問となっている。身近な親しい人のいのち、または、他人のいのちについての設問や、親からの愛情の実感の有無などについての質問となっている。そこから、「いのち」の大切さを他者との関係性の中で、どう実感し、どう行動に表しているのかを調査した。

4 つ目は、「いのち」を大切にするための教育に関する設問である。学校あるいは親や周りの人から、「いのち」の大切さを学んだことがあるか、心に残っていることは何かを問うことで、「いのち」の大切さについての教育の現状を把握し、さらに、今後の平和教育や倫理教育の実践につなげるための質問が設定された。

### (3) 宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成23年11月7日～8日

会場：天台宗東北大本山関山中尊寺（岩手県）・「老萊子の家」（宮城県東松島市）

参加者：12名

プログラム概要：

中尊寺施設見学

講演 中尊寺の由来や教え、震災時の状況とその後の支援活動について  
（山田俊和 同寺貫首）

追悼のための祈り（東松島市沿岸部）

「老萊子の家」（NPO 法人創る村）訪問

### (4) 創設30周年記念事業

創設30周年を記念し、以下の概要で記念式典を開催し、また、20周年以降の10年の歩みをまとめた記念誌を発刊する準備を進めた。

期日：平成24年3月26日

会場：東京普門館地下ホール

参加者：約110名

プログラム概要：

《第1部》

開会挨拶（萩野八重子 WCRP 日本委員会婦人部会事務局長）

来賓挨拶（庭野日鑛 WCRP 日本委員会理事長）

スリランカ諸宗教評議会代表団の紹介

スリランカ諸宗教評議会ベランウィラ会長挨拶

婦人部会30年の歩みの振り返り（林恵智子 WCRP 日本委員会婦人部会委員）

シャンティ国際ボランティア会（SVA）若林恭英会長より感謝状の贈呈

講演 アジアでの取り組み

ー羽生勇作（横浜市立大学アカデミック・コンソーシアム事務局代表）

ー三宅隆史

（シャンティ国際ボランティア会（SVA）アフガニスタン事務所所長）

報告 青少年へのいのちについてのアンケート

（松井ケティ WCRP 日本委員会婦人部会委員）

今後の展望（森脇友紀子 WCRP 日本委員会婦人部会部会長）

《第2部》

来賓挨拶（宮本けいし WCRP 日本委員会事務総長）

挨拶（山田能裕 WCRP 日本委員会評議員・難民委員）

功労者への花束贈呈

記念演奏（NPO 法人創る村）

閉会挨拶（平野京子 WCRP 日本委員会婦人部会監事）

## 7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

### （1）サマーキャンプ 2011

各宗教についての体験学習や分科会を行い、相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 23 年 9 月 2～4 日

会場：天台宗総本山比叡山延暦寺（滋賀県）

参加者：59 名（19 教団）

テーマ：Heart to Heart——今、私たちができること from 比叡山——

プログラム概要

《1 日目》

開会式

閉会挨拶（小林祖承 同寺副執行・総務部長）

《2 日目》

座禅体験

読経体験

講演：「被災地の心のホットライン」

（川上直哉 日本基督教団仙台市民教会主任担当教師）

分科会：「被災地の復旧・復興、心のケア」

「絆：人間関係・家族」

「若者と政治問題」

「世界の紛争」

「ソーシャル・ネットワーキング・サービスと私たち」

など

《3 日目》

講演：「宗教協力と青年」（小堀光實 同寺副執行・管理部長）

体験の分かち合い

### （2）学習会

期日：平成 24 年 3 月 31 日

場所：大宮八幡宮（東京都杉並区）

参加者：16 名

テーマ：東日本大震災における宗教者の役割

講演者：根本昌廣 WCRP 日本委員会震災タスクフォース責任者  
（立正佼成会外務部長）



### (3) 日韓青年交流プログラムの準備

日本と韓国の青年交流は、2年に1度実施し、交互に日本と韓国を訪問している。各国20～30名の青年が参加し、ホームステイや分科会、現地の宗教施設訪問などを通してそれぞれの国の文化や宗教を学び、相互理解を深めている。平成24年度に実施するための準備・調整を行った。

## 8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

### (1) マスコミ関係者との情報交換

#### ①プレスリリース

平成23年度、15のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

#### ②記者懇談会

平成23年9月29日、京都市内において、京都記者クラブを中心とした宗教関係の記者の方々と記者懇談会を開催した。約15名の記者が参加し、震災対応、次回世界大会のあり方、WCRP日本委員会の新法人に向けての取り組みなどについて意見交換を行った。

### (2) ホームページ

ホームページを通して、事業の成果報告や告知を行った。随時データ更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加をよびかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

平成23年度のアクセス数：49,652

### (3) 出版

#### ①機関誌「WCRP」

毎月3,000部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連やNGO関係者並びにマスコミ関係者等、約2,000部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対して、年間購読料1,000円で送付した。

#### ②平成22年度活動報告

平成23年7月に、平成22年度活動報告を3,000部発行し、WCRP日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に、2,600部を無料配布した。

また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③書籍「平和への道をめざして——WCRP 先達の足跡——」

平成 23 年 9 月 1 日付で、3,000 部発行した。これは、機関誌「WCRP」の連載企画を集成したもので、WCRP の創設や諸宗教対話・協力に尽力した諸宗教者について紹介したもの。

機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（1,500 円）で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

④書籍「平和のための宗教 対話と協力 5」

第 1 部は、平成 23 年 3 月 11 日に開催された平成 22 年度平和大学講座「まほろばの精神と Shared Security——今、諸宗教に問われているもの——」を特集し、第 2 部は、Shared Security をテーマとして平成 22 年度に実施された WCRP 日本委員会平和研究所の研究会での研究発表を収録した。

平成 23 年 9 月 12 日付で、800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（800 円）で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

⑤書籍「韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー2011」

平成 22 年 9 月に実施された同セミナーの報告書を平成 23 年 9 月に発行し、ホームページ等を通じて広報した。

⑥「第 38 回平和のための宗教者研究集会」報告書

平成 23 年 6 月に開催された同研究集会の報告書を平成 24 年 1 月 27 日付で、500 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 300 部を無料で配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価（500 円）で提供した。

⑦「共にすべてのいのちを守るために WCRP 日本青年部会 40 年の歩みと ARMS DOWN! 」報告書

平成 21 年 12 月 3 日～平成 22 年 9 月 25 日の期間、核廃絶と軍縮、国連の MDGs（ミレニアム開発目標）を促進するため、全世界で署名活動を展開する「ARMS DOWN!」キャンペーンを実施した。日本国内で 1000 万名以上の署名を集め、国連代表に手渡し、また NPT（核不拡散条約）再検討会議に参加し、核廃絶に向けた提言を行った。平成 24 年 3 月に、青年部会のこれまでの活動と同キャンペーンの取り組みをまとめた記念誌を 1,000 部出版し、役員、賛助会員、宗教関係者、研究者、NGO 関係者等に、約 300 部を無料で配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供し、一般市民への情報提供を実施した。

(4) 広報委員会

平成 23 年度、4 回の委員会を開催し、各種出版物に関する協議や法人移行後の広報のあり方についての協議を行った。

## 9. 平和開発基金

### (1) 指定事業

- ①アジア眼科医療協力会への支援（一燈園）  
支援先：アジア眼科医療協力会
- ②ハンドインハンド校への支援（一燈園）  
支援先：ハンドインハンド校
- ③ユニセフへの支援（大宮八幡）  
支援先：日本ユニセフ協会
- ④アフガニスタン絵本事業支援（WCRP 日本委員会婦人部会）  
支援先：シャンティ国際ボランティア会（SVA）

### (2) 一般事業

- ①中国孤児救護協力委員会活動支援（人権委員会申請）  
支援先：中国孤児救護協力委員会（韓国）
- ②在日外国人労働者支援（人権委員会申請）  
支援先：カラバオの会、共の会、港町診療所
- ③軍縮タイムズ発刊支援（非武装・和解委員会申請）  
支援先：NGO 軍縮委員会
- ④核兵器廃絶を目指す 2020 Vision キャンペーン支援  
（非武装・和解委員会申請）  
支援先：平和市長会議、広島平和文化センター
- ⑤アフガニスタン教育支援事業（難民委員会申請）  
支援先：シャンティ国際ボランティア会（SVA）

### (3) 平和開発基金の啓発、及び募金活動の推進活動

## II. 法人運営部門

### 1. 法務に関する業務

- (1) 主務官庁との連絡及び登記事務他
- (2) 法人移行に関する業務
  - ①法人移行のための準備委員会の開催（8回）
  - ②公益財団法人への移行認定申請（平成23年11月4日、内閣府へ提出）
  - ③公益財団法人としての登記（平成24年4月1日）準備

### 2. 会議に関する業務

#### (1) 理事会・評議員会

- －第114回理事会・第109回評議員会  
期日：平成23年4月18日  
会場：立正佼成会付属図書館視聴覚ホール（東京都杉並区）
- －第115回理事会・第110回評議員会  
期日：平成23年6月13日  
会場：日蓮宗大本山池上本門寺本院（東京都大田区）
- －第116回理事会・第111回評議員会  
期日：平成23年7月21日  
会場：京都市国際交流会館（京都府京都市）
- －第117回理事会・第112回評議員会  
期日：平成23年9月12日  
会場：熱田神宮会館（愛知県名古屋市）
- －第118回理事会（文書持ち回り）  
期日：平成24年1月26日
- －第119回理事会・第113回評議員会  
期日：平成24年1月27日  
会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）
- －第120回理事会・第114回評議員会  
期日：平成24年3月12日  
会場：国立京都国際会館（京都府京都市）

#### (2) その他諸会議の運営及び記録他

### 3. 監査に関する業務

平成23年5月31日に実施

### 4. 財務に関する業務

- (1) 資産運用及び管理に関する業務
- (2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務  
各種文書の作成、提出、管理及び保管他
6. 人事及び福利厚生に関する業務  
勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他
7. 庶務に関する業務
  - ①什器備品、印刷物、公印等の管理他
  - ②その他どの部門にも属さない事項の処理他

平成 23 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

平成 24 年 5 月 30 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会